

第7回「くすりのしおりクラブ」担当者会議

くすりのしおりコンコーダンス委員会 中畑 智予



「保険薬剤師に求められる役割」をテーマに講演

「くすりのしおり®」を作成している製薬企業150社の担当者とくすりの適正使用協議会との情報交換の場として、第7回「くすりのしおりクラブ」担当者会議が平成26年1月30日(木)に大手町サンスカイルームで開催されました。

前半の講演では、株式会社望星薬局 医薬品情報室 室長の滝澤 健司先生をお招きし、「保険薬剤師に求められる役割」をテーマにご講演いただきました。望星薬局は昭和50年の設立以降、ラウンド薬剤師制度、総合処方監査システム、スマートフォンでのお薬手帳など先進的な取り組みを行っている薬局です。超高齢化社会が到来する状況下で、これからの薬局薬剤師が担うべき役割として、「在宅医療」、「後発品の使用促進」、「セルフメディケーション」が重要であるとの訴えがありました。また薬局での「くすりのしおり®」の活用例として、糖尿病薬の初回服薬指導時に「くすりのしおり®」を使用していること、外国人在住者が多い地域の店舗では望星薬局独自の英語の薬剤情報提供文書作成に「英語版くすりのしおり®」を活用していることが紹介されました。更に「くすりのしおり®」の良い点として、患者さんからの問い合わせが多い「飲み忘れの対処法が記載されている」ことや、「副作用の初期症状もほぼ網羅されている」こと等を挙げられ、現場の声も知ることができました。

くすりのしおり®利用状況など報告

会議後半では、くすりのしおりクラブ会則・作成基準の改訂、データダウンロードシステム (DDLS) 活用事例、くすりのしおり登録管理システムの利用上の注意点並びに「くすりのしおり®」利用状況についての報告がありました。現在、「くすりのしおり®」の掲載品目は、内服・外用・自己注射・注射剤が14,352品目、英語版が3,183品目の計17,535品目です(平成26年3月末現在)。今後、医療関係者からの意見もふまえ、英語版、そして注射剤の「くすりのしおり®」の充実も図りたいと考えています。

会議終了後のアンケートでは、「現場での活用事例を知ることができ励みになった」、「登録管理システムをもっと使いやすくしてほしい」などのご意見がありました。

くすりの適正使用協議会は、患者さんのくすりの理解促進と適正使用の普及、更には“コンコーダンス”の実現に向けて「くすりのしおり®」がコミュニケーションツールとして医療現場で更に活用されることを目標に、「くすりのしおり®」作成企業と協力しながら今後も活動してまいります。

くすりのしおり® 作成企業一覧



<http://www.rad-ar.or.jp/siori/sioriclublist.html>